

◆国調の成果明るい明日が待ち◆

国調の、国勢調査は早期公表という旗印をかかげて3月1日に始まる。全国49万人(本県9,300余人)の調査員を擁する。全世界的2,300万(本県の42万)を訪問して、約9,800世帯(本県約200余万人)の人口を、もれなく、重複しないように調査することになっている分国勢調査の結果は国調の議員定数を決定するとか、地方交付税の算定資料とするとか、国や地方の行財政、その他人口に関する各種の資料として欠くことのできない基本的な調査で、その結果が、私達の生活を明るく豊かにするための資料として活用されることを考えるとき、正しい調査票の記入は、国調の成果をより一層高め、私達の生活に貢献していることになる。

◆国調の準備会議で今日も暮れ◆

国勢調査実施本部は、目下大童の状態、この事を行なうためには準備が大切、そのために本部の企画指導班では連日の事務打合せを積み、完全遂行を旨としいろいろの企画を打ちあわせをしばつている。組織達成のため統一してあてでは駄目、こうした方がいかなど苦勞は並大底ではないらしい。会議は、課内の会議をはじめ、市町村統計主任者会議、事務主任者、指導員、調査員打合せなどが9月まで続く、まさに国調の準備は会議に追いまわされているようである。

◆アイデアが浮び広報マンの笑み◆

昔は正にP、R時代、国勢もまた然り、一般の調査対象者に正しい記入をしてもらうためには広報が大切、実施本部の広報班もいかに、良い広報をなすべきかに頭を悩ませます。民間企業の金糸目をつけないP、Rにくらべると予算では折角のいいアイデアも予算によつてオジヤンになることも多い、少ない予算を有効に使つて、よいP、Rを行なうために今日も広報班はペンを握つて思案にふける。

◆30のよわいたたえる今日があり◆

統計協会創立30周年を祝つて、昭和40年度県統計大会

が7月6日茨城会館で開催される。人間も30才になつてようやく思慮分別をわきまえ、どうやら家庭をもつて一社会人となる。協会も創立以来30年、その間大戦前後の苦境期をのり越えて現在に至る。先輩の築いたこの輝やかなしい業績を汚さぬように県下の統計マン、近代統計の遂行に応え、統計思想の普及に団結を誓う。国勢調査後に控え統計大会も行政管理庁中山政務次官、野田統計局長らを迎えまことに有意義、盛大裡に行なわれた。

◆虫歯チクチク大の男を眠らせず◆

6月4日虫歯予防デー、四界静かに眠る真夜中の歯痛こそ神経が芽え七転八倒までといかないまでもどうにも

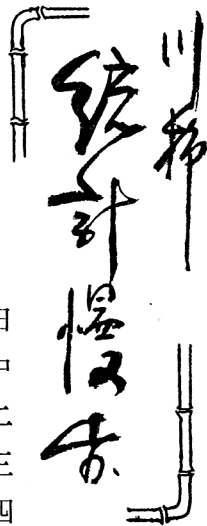
我慢がならない痛さ、僅か1センチ大の虫歯があれば一睡も出来ないつらさは本人以外知るよしもない。最近衛生思想が進んで虫歯も少なくなつたようであるが、昭和39年学校保健統計調査による児童生徒の虫歯のある者は、小学校で男79.2%、女81.1%、中学校男64.6%、女67.7%、高等学校男66.0%、女63.5%と低学年ほど多く、依然として子供達を悩ませているようである。

◆開会が遅れる会議気にもせず◆

日本人は時間の観念が薄いといわれる。たしかに会議など必定期刻に始められるのは希であろう。一般もどうせ遅れるんだらうと遅れることを計算に入れて集合する。6月10日は時の記念日、刻々と過ぎ去つていく時間は再びかえらぬ。時間を無駄にしないようお互に近代人としての自覚を再認識するのもこの日である。

◆けん牛と織女に冴える天の川◆

7月7日は七夕さま、昔は盛んであつたこの行事も一般家庭からは忘れられ、現在では商店界の客寄せのためP、R用のお祭りとなつてしまつたようでまことに心寂しい。この頃の夜星には銀河が美しく冴え、けん牛星と織り姫星のロマンチックな悲しい天体のロマンスをより美しくするために永遠の輝きを地上に届ける。見上げると人間移学の進歩人口衛星もぎつと天体の星の仲間入をして地球を駆け廻っていることであろう。



(12)

統計の交差点

昭和40年度県統計大会終了

去る7月6日県内統計関係者を集めて開かれた、昭和40年度の茨城県統計大会は出席者800人をかぞえ、盛大に行なわれましたが、関係者皆様方の絶大なご協力の賜と厚く感謝いたします。今後とも統計につきましてはよろしくご協力のほどおねがいいたします。なお当日の模様、表彰者などの名簿は別記(7ページ)のとおりです。ご高覧下さい。

第16回全国統計大会開催される

7月20日、21日の両日横浜市神奈川県立音楽堂で雨模様の中にもかかわらず全国からの参会者を集めて、盛大に行なわれました。本県からも多数出席参加いたしました。大会次第は予定どおり行なわれましたが、昨年行なわれた前夜祭、当日の慰安の夕べは行なわなかつた。

なお第13回統計図表コンクール入賞作品が会場に展示され一層大会気分を盛り上げていた。この統計大会の模様については後日本誌に掲載する予定であります。

統計大会次第(7月21日)

受付開始	8:30	
開会・あいさつ	9:30	
表彰	9:45	
祝辞及び祝電披露	10:45	
受賞者総代謝辞	11:00	
議事	11:05	
休憩(昼食)	12:00	
研究発表	12:40	
パネル討議	13:40	
議事採決・宣言決議	15:10	
次期開催地決定	15:25	
記念講演	15:30	
万才三唱・閉会	16:35	以上

40年国調市町村事務主任者打合せ会

昭和40年国勢調査の市町村事務取扱の要項、指導員の手引き、調査の内容等について県下ブロック毎に7月12日から16日まで5日間行なわれた。

7月12日(9:30~4:00)	麻生町	鹿島, 行方郡
13日	土浦市	稲敷, 新治, 筑波北相馬郡
14日	日立市	東茨城, 西茨城, 那珂, 久慈, 多賀郡

15日	〃	笠間市 16市
16日	〃	下館市 真壁, 結城, 猿島

県民性の調査

茨城県の住民の人びとが、公私の生活を通じて起るいろいろな問題について、どのように感じ、またどのように考えているか、といったものの見方、考え方についてこれを調べ総合的に県民全体としての考え方や態度の徴を明らかにし、これを今後の県政のうえに反映させゆき、また民間の営業上の指針、教育上の参考、学問研究の資料として多方面で利用されることを期待して、このたび県民性の統計調査が行なわれることになりました。調査の方法は県内の選挙有権者の中から、抽選で買戻の回答者になつていただく方を選びますが、既に約500人が決定しております。回答者に決つた方には、ご多忙の中まことにご迷惑とは思いますが、私達の将来明るい豊かな生活の基礎資料を作る大事な調査であることを、ご認識ご理解いただきまして、自由にご遠慮なく記入下さつて洩れなく回答下さるようお願いいたします。

調査回答が少ないと、その結果においても「ゆがみ」も出る可能性もありますので、是非ともご協力をお願いいたします。

なお、この調査項目は宗教、子供、家、社会、男女別日本人、人種その他数項について行います。

調査は来る8月1日を期して実施いたしますが、結果については昭和41年3月31日までに発表できる見込にご協力ご期待をねがいます。

昭和39年工業統計調査(用地・用水)

昭和39年の工業統計調査中、10人以下の事業所の調査についてはすでに通産省への進達も終り、現在工業用地の取まとめ中ですが、この調査は、県内の工場敷地や用水取得面積や工業用水の使用量などを行政資料や一般会社団体等の利用に供しようとするものであるが、近く集計も終り一般に公表できる見込があります。

統計人へ叙勲

政府は多年各界にあつて、社会に功勞のあつた1,000人に春の叙勲を発表した。

統計調査の功労者として、次の6氏が叙勲をうけ

兵衛氏 (東京)	勲一等瑞宝章
実輝氏 (東京)	勲五等双光旭日章
正巳氏 (和歌山)	勲六等单光旭日章
渡辺之助氏 (栃木)	勲六等瑞宝章
重次氏 (山形)	勲六等瑞宝章
藤本太郎氏 (広島)	勲六等瑞宝章

就業構造基本調査について

就業状況を明らかにして、経済計画、雇用失業対策などの基礎資料を得る目的で、3年毎に行なわれているこの調査もすでに説明会、用紙の配付等も終り実施の段階ですが、今後の事務執行の予定は下記のとおりです。ご協力をお願いいたします。

記

調査世帯の選定	7月6日～7月10日
実施調査	7月6日～7月15日
調査書類の提出期限(市町村)	7月24日(土曜)

1965年中間農業センサス農家調査 結果表審査

1965年中間農業センサス調査結果表の審査会は下記の日程で行なわれました。

6月10日	山方町
6月11日	岩瀬町・玉里村
6月12日	大子町
6月14日	下館市・谷田部町・八千代村
6月15日	竜ヶ崎市・麻生町・那珂湊市
6月16日	桜川村・藤代町
6月17日	協和町・岩井町
6月18日	大洗町・波崎町

昭和39年の鉱工業生産指数

経済情勢、景気の動向の把握に重要な資料として、活

用されている鉱工業生産指数の39年分が、このほどまとめられ公表されました。

この資料は、35年を基準とした39年の本県鉱工業の生産指数を表わしたもので、内容は

- 昭和39年の鉱工業生産動向
- 産業別対前年比上年昇率の比較
- 品目別対前年比上年昇率
- 鉱工業生産指数(季節修正済)の月別推移
- 35年基準茨城県鉱工業生産指数

に分れており、統計数表が大部分であり行政資料、営業の計画立案、研究などに御利用下さい。

パンフレットご入用の方は県統計課経済統計係までお申し込み下さい。

国勢調査記念たばこ発売

総理府統計局では、かねて日本専売公社に対して来る10月1日の国勢調査を記念しての記念たばこを発売することを申請中であつたがこのほど発売することに決定した旨下記のとおり通知があつた。

名称	第10回国勢調査記念	区域	全 国
品種	ひびき	期日	9月25日から
数量	2億本		

教職員の統計図表講習会

県統計教育研究部では、統計教育の充実向上と統計図表作成の手法の手法、技術の習得、指導力の向上をはかる目的で、県内4ブロックでその講習会が開かれた。

講師は教育庁指導主事塚平八郎氏・県統計課広報資料係長田中文司氏が当つた。参加者は県下教員で下記の日程で行なわれた。

8月2日	日立市河原子小学校
8月6日	下妻市下妻小学校
8月10日	土浦市真鍋小学校
8月17日	水戸市 県校長会館

統 計 課 人 事 異 動

(昭和40年6月10日付)

新

友部病院事務局主査兼庶務課長
統計課庶務係長
同 (人口学事統計係付)
同 主幹 (人口学事係付)
東北振興事務所
農地部農地課
電書公聴課
統計課商工統計係
同 経済統計係
同 庶務係

飯 田 喜 市
清 水 孝 親
主 幹 中 村 健 三
主 事 稲 葉 鶴 夫
主 事 坪 好 隆
主 事 齊 田 好 子
主事補 小 国 勝 雄
主 事 河 辺 芳 雄
主事補 住 谷 義 親
主事補 木 村 み づ い

旧

統計課庶務係長
総務部消防防災課庶務係長
鹿島開発第二課主幹 (鹿島臨海工業地帯開発組合)
統計課人口学事統計係
同 商工統計係
同 広報資料係
同 経済統計係
県立図書館
農林水産部蚕糸課
大宮土木事務所

近 着 統 計 資 料 案 内

図 書 名	調査年 刊行年	発 行 者	図 書 名	調査年 刊行年	発 行 者
社会・教育			消費者実態調査報告	39年	愛 知 県
39年度総合調査報告	39年	住宅金融公庫	県 民 所 得	38年	秋 田 県
科学技術研究調査報告	39年	総 理 府 統 計 局	鹿児島県統計年鑑	39年	鹿 児 島 県
申告所得税と実態	38年	国 税 庁	学校基本調査結果報告	〃	千 葉 県
産業・経済			京都市民所得	38年	京 都 市
昭和38年工業統計調査集計結果	38年	通 産 省	島格県生業指数	39年	島 根 県
事業所統計調査報告(栃木)	〃	総 理 府 統 計 局	奈良県統計年鑑	38年	奈 良 県
〃 (福島)	〃	〃	商業のすがた	39年	静 岡 県
〃 (千葉)	〃	〃	横浜市の商業	〃	横 浜 市
〃 (群馬)	〃	〃	横浜市の工業	〃	〃
〃 (石川)	〃	〃	佐賀県の商業	〃	佐 賀 県
〃 (高知)	〃	〃	長野県の商業	〃	長 野 県
〃 (静岡)	〃	〃	第3次漁業センサス結果概要	38年	千 葉 県
〃 (愛知)	〃	〃	県民所得とその推計	39年	兵 庫 県
商業統計表(産業編)1巻	〃	通 産 省	山口県統計年鑑	38年	山 口 県
〃 (〃)2巻	〃	〃	工業統計調査結果	38年	宮 城 県
〃 (品目編)3巻	〃	〃	3千億を超えた販売額	39年	三 重 県
水産物流通統計年報	〃	農 林 省	山梨県の農家経済	38年	山 梨 県
個人企業経済調査年報	〃	総 理 府 統 計 局	果樹農業の実態	39年	千 葉 県
貯蓄動向調査	39年度	〃	大分県勢の展望	40年版	大 分 県
豚飼養の動向	40年 5月	農 林 省	県民所得推計結果	38年	徳 島 県
基礎調査結果報告	39年	〃	京都府民所得の概要	〃	京 都 府
運輸経済年次報告	39年	運 輸 省	35年京都府産業連関法		〃
地方都市の貨物、旅客の流入 出入調査表	38年度	〃	京都市の教育	40年版	〃
都道府県			茨 城 県		
長野県鉱工業生産指数	39年	長野県統計課	茨城県農業所得統計	38年	農林省茨城県統計 調査事務所
広島県統計要覧	〃	広島県 〃	農林水産統計年報(水産編)	〃	〃
県民所得推計報告書	38年	岡山県 〃	主要農作物市町村別資料	39年	〃
法人企業統計調査報告書	〃	〃	道 路 現 況	40 3年	県 道 路 補 修 課
東京都生命表	35年	東京都統計部	気 象 資 料	40 6年	県 災 害 対 策 本 部
香川県勢一覽	40年版	香 川 県	茨城県における放射能調査	40 3年	県 衛 生 研 究 所
県 民 所 得	38年	石 川 県	39年産葉たばこ生産統計表	39年	日 本 専 売 公 社 水 戸 地方局
石 川 県 の 人 口	39年	〃			

大久保 今 輔 (3)

前 田 香 径

大久保氏の祖先は、小野崎越前守通久の家臣で古い軍記「石神後鑑記」によると、石神(現那珂郡東海村)野崎氏落城のとき(討ち洩らされたる大久保淡路亀井に到着」とある。この亀井は亀作のことで、石神の誤写であろう。大久保家の記録にも那珂郡石神二、赤城姓、大久保淡路守、久慈郡亀作村へ移るとある。大久保氏の遠祖が天正年間この地に掃農したことは推していいと思う。重忠老は耳が遠くて私の質問に聞きとれない様子だったが「石神落城のとき、亀井が逃げのびてきたが、セト(裏)はその3人中で一番で大本家、わしの家は分家だと死んだ父親から聞かされていたと私に語ってくれた。だが老人は私の知りたがる今輔のことについては、語るのを好まぬといふ態度が感じられたのである。

亀井は山一つをへだてて多賀郡大窪村(現日上市)に居るが、この地は佐竹氏の家臣大窪氏が数代にわたって居たところで、徳川時代になって大久保に移った。佐竹氏の「常陸三家譜」の中に大窪氏の系譜が記されているが、今輔の始祖はこの大窪氏の血脈についていわれている。彰考館所蔵の「水府系纂」を見ても今輔の家系は僅かに四代を記入するのみその先祖について全く記載のないのは彼の家に完全な系譜のなかつたことがあろう。

大久保五兵衛 — 某銀之衛門
 — 某 文蔵 — 秀房 伊麻祐
 — 某 重衛門 —
 — 某重次郎

伊麻祐となつているのが、今輔である。水戸藩に在る前は今介と称していたが、伊麻祐と改めたのは天保六年(1823)秋、藩主袁公(齋修)から三百石30石の手増を賜つたときで、秀房と名乗つたのも恐らく同じころであらう。彼の祖先は大久保淡路守の血脈といわれているが、大久保は旧姓大窪で、詩人大窪詩仏もその一族である。慶長七年(1601)佐竹氏移封のとき、佐竹氏家臣丹波守猛虎の一味は水戸城奪取の兵をあげたが、大窪氏一党悉く刑死した。その一人大窪久光は徳川家臣をついた謀叛人であるから、彼の一族は久光の断罪で大窪氏の名乗りを擲り、大久保氏と改めたらしいが大窪氏の名家は流落し、貧農に伍して数代を経てゐるから

特に村人から尊敬されていたとは考えられない。

今輔の墓碑文に「父重左衛門秀政の二子秀光、石川氏の女をめとり二子を生むとしてあり、系纂の五兵衛が後に重左衛門秀政と改めたのなら、その次男文蔵はすなわち秀光で、今輔は文蔵の長男になるわけである。彼の母の石川氏は名をひなと称し、今輔とその弟重衛門を生んでいるが、文蔵は実は彼の義父である。常陸太田市役所刑行の「今輔昭年譜」は「宝暦十年、今輔五歳るとき、父文蔵病没し、生母ひなは父の実弟、すなわち、今輔の叔父と逆縁し一子を生む」としてあるが、これを事実とすれば彼は文蔵の兄銀之衛門の子でなければならぬ。

今輔の少年時代は決して幸福だつたとは思われない。明和七年の初夏、彼は義父といつしよに田圃へ出て、耕馬の手綱をとつて苗代つくりをしていたが、義父は彼の動作に何か気に喰わないことがあつてか、疝癪を起して今輔をひどく叱責した。そのときは彼は黙つて畔に上ると、そのまま家へ戻つて出奔してしまつたといわれている。

鈴木成章の「水戸歴世譚」は

「今助と云は水戸在亀作村の賤民にて、遊惰にして博ちを好み、刑を受けし分なりしが、水戸の藤柄町の桑渡世しける六衛門と云るもの世話にて、一時藩士某の家に草履取奉公に住込み、半年許過ぎて暇を取り江戸に上りぬ」(原文のまま)

という一文を載せている。これは彼の少年時代を語る唯一の資料であるが、今輔は時に14歳、賭博好きの不良少年で処刑されたこともあるという。だがこの一文はちよつと信用できない気もする。「桑柄渡世」は「鍛柄渡世」の誤りと思うが著者はこの一文をどんな資料から引用したのであろうか。彼を「賤民」といつているのもひどい。零落していても由緒正しい大久保氏である。「新編常陸国志」も「初今助は罪ありて国を放逐せられしもの」と載せているがその出典は「水戸歴世譚」と同一の原本「無名氏筆記」であらう。この筆記は何者の筆かわからないが、確かな証拠があつて書き残したものとは考えられない。彼の処刑や放逐は疑わしくあり、墓碑文には「明和庚寅14歳、遂に四方の志あり」とあり、家出の理由などは無論記されてはいない。

(つづく)